

基本協定の概要

本基本協定は、自立的にイプシロン S ロケットを用いた打上げ輸送サービス事業を展開できる体制を構築し、産業基盤を維持および発展させて宇宙輸送システムを自立的かつ持続可能な事業構造に転換することを目的として、JAXA と IA が開発段階および運用段階で担う役割などの基本的事項を定めたものです。

イプシロン S ロケットの総合システム（ロケットシステムと射場施設設備システム）の開発は JAXA がとりまとめる一方で、民間事業者がイプシロン S ロケットを用いて自立的に打上げ輸送サービス事業を担う観点から、総合システムのうちロケットシステムの開発は民間事業者が主体的に進める役割分担としています。

基本協定に定める JAXA と民間事業者の役割等に係る基本的な考え方を下表に示します。

	JAXA	民間事業者
開発段階	ロケットシステム、及び射場施設設備システムを統合した「総合システム」を担当し、我が国の自立的な宇宙輸送システムを確保し、既存技術や射場設備におけるロケット技術基盤を保持し、活用する。	運用段階における自立的な打上げ輸送サービス事業展開のことを考え、主体的にロケットシステムを開発する。
運用段階	我が国の固体ロケット技術基盤及びキー技術を維持するとともに研究開発を推進しその成果を民間事業者に移転すること等により、民間事業者の打上げ輸送サービス事業の発展に貢献する。	ロケットの品質向上、設計改善、不適合対策、枯渇対応等の処置について自らの判断により対応する方針とし、我が国の産業基盤の維持・向上に資するよう、打上げ輸送サービス事業を展開する。

基本協定締結式の様子

2020年6月11日（木）に、JAXA 東京事務所において本基本協定の締結式を開催し、JAXA 山川理事長と IA 牧野代表取締役社長による基本協定書への署名を行いました。



基本協定書への署名



JAXA

- 山川理事長（左から 3 番目）
- 布野理事（左から 2 番目）
- イノベーションプロジェクトチーム
井元プロジェクトマネージャ（左から 1 番目）

IA

- 牧野代表取締役社長（右から 3 番目）
- 田村取締役（右から 2 番目）
- 宇宙輸送システム技術部
永山部長（右から 1 番目）

協定締結にあたってのコメント

JAXA 理事長 山川 宏

「本日は、IHIエアロスペースの牧野社長と共に、国際競争力をもたせたイプシロンSロケットの開発と運用における基本協定を締結できました。イプシロンSロケットを民間に移管して打上げ輸送サービスを展開していく一連の土台を整えたという意味で、極めて重要なステップを踏み出せたことを大変嬉しく存じます。

近年の人工衛星打ち上げ市場では、小型化・集積化の技術進展によって宇宙ビジネス利用の拡大が急速に進み、質量・サイズ・用途等大変多様な衛星の打上げ需要が数多く計画されている市場動向があります。

このイプシロンSロケットでは、これまでの固体燃料ロケットを維持・発展させながら、官需に加えて、民需を積極的に取込んでいくことで打上げ機会を確保し、自立的な打上げ輸送サービスの展開と我が国の宇宙産業の規模の拡大を目指して、IA 殿と一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。」

IA 代表取締役社長 牧野 隆

「本日は、『イプシロンSロケットの開発、及び打上げ輸送サービス事業に関する基本協定』を、JAXAさんと締結することができ、大変うれしく思います。これまで、ご尽力いただいた関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

今後、イプシロンSによる打上げ輸送サービスを世界に展開していくために、開発のみならず、お客さまの開拓から打上げに至るすべてのフェーズにわたる運用体制の構築を図ってまいります。世界を見ると、宇宙産業には、新しいプレーヤーによる、新しいビジネスが始まっています。イプシロンSにおいても、年間1機の国の衛星打上げに加え、商業衛星の打上げサービスを受注し、自立的かつ持続可能な事業へ育てていきたいと思っております。

イプシロンSの実証機の打上げは、2023年に予定されていますが、それまでに現行型イプシロンの打上げも計画されています。これからも引き続き打上げを成功させ、イプシロンSの打上げサービスの展開に弾みをつけられるよう、JAXAさんと共に全力を尽くします。皆様のご支援をお願いいたします。」